

メコン河総合開発の現状

昭和40年7月

JICA LIBRARY



J 1129590(4)

海外技術協力事業団
開発調査部

JICA
100
617
KE
IBRARY

目 次

I	メコン河総合開発調査	1
1.	メコン河下流域調査調整委員会	1
2.	メコン河開発計画	1
3.	国際協力	2
4.	日本の協力	2
附表 1.	本流および支流開発計画進捗状況	6
2.	開発計画に対する各国の協力状況	9
3.	わが国のメコン河開発調査事業年度別実績表	18



1129590 [4]

メコン河総合開発調査

1. メコン河下流域調査調整委員会

1957年3月のエカフェ第13回会議で採択された勧告に応じ、カンボディア、ラオス、タイ及びヴェトナムの四ヶ国政府は、1957年10月メコン河下流域調査調整委員会を設立した。委員会は、各四接岸国からの全権代表をもつて構成され、「メコン河下流域における水資源開発計画の立案と調査を促進し、調整し、監督し及び統制すること」及び「構成各国政府を代表して特別の財政的、技術的援助を要請し、かかる援助を個々に受領し、管理すること」等の権限を付与されている。

2. メコン河開発計画

メコン河開発計画、水力発電、灌漑、洪水調節、排水、舟航改善、流域調節、給水、及び関連開発につきメコン河の本流及び支流を含めその下流域の水資源開発を目的とするものである。その業務は、次のように分類される。

- (1) 基礎資料の収集
- (2) 総合的流域計画立案
- (3) 必要に応じ個々の本流及び支流計画の立案及び設計
- (4) 投資の手配に関する援助
- (5) 必要に応じ計画の建設、運営及び維持への援助
- (6) 関連する業務

3. 国際協力

メコン河調査の際立つた特徴の一つは、メコン委員会を推進母体として、国際的な協力のもとに調査が進められていることである。各接岸国は政治的・外交的に衝突しながらも、メコン委員会の活動に関する限りは協力し合ってきたし、またエカフェを始め国連、先進、後進諸国が当初から援助協力してきた。関係者はこれをメコン・スピリットと呼んでいる。

現在の援助国・機関は、1. 2 国連関係機関、2. 1 カ国政府、3. 私設財団、その他民間会社である。これらの国・機関からの調査費用の援助実績は別表1のとおりである。また、支流計画のうち比較的大きなタイのナンボン計画及び比較的小さな2計画（ラオスのセドン下流計画、ナムドン計画）の建設のため2接岸国に対し借款が供与された。

1965年1月1日現在の資金は調査、計画用換出金及び借款を合わせて\$67,765,793相当額となり、分類すると、

- | | |
|-----------------|---------------|
| (a) 投資前調査と立案のため | \$ 27,143,814 |
| (b) 建設への投資のため | \$ 40,621,979 |

となる（別表2）。

これらの資金による各計画の進捗状況は別表1の通りである。

4. 日本の協力

わが国は1958年度以来メコン委員会の調査活動に援助を続けてきた。1958～64年度間にわが国が拠出した金額は3億6,170万円にのぼり、本年度さらに6,400万円が計上されている。わが国の援助概要次の通り（詳細別表3）。

(1) 1958(昭33)年度第1次主要支流踏査

メコン河下流域の主要支流34河川について航空調査並びに地上踏査を行ない、その報告書(1959年5月提出)の中で、8支流(ラオスのナムダム、セパンヒエン、セドン、タイのナンボン、カンボジアのスタンセン、バツタンバン、ウイエトナムのスレボック上流、セサン上流)について即時精密調査に着手するよう勧告した(委員会は、内ナムダム、ナンボン、バツタンバン、セサン上流の4支流をPilot and Training ProjectとしてSFの資金を得て調査を開始した。

(2) 1959(昭34)年度第2次主要支流踏査

すでに踏査を行なつた34支流のうち16支流につき、主要支流の開発に関する予備計画の策定に必要な、より詳細な地上踏査を行ない、その報告書(1960年6月提出)の中で、早期有望開発計画として7支流(ラオスのセドン、タイのナムダム、ナムムン下流、カンボジアのプレクトノット、スタンセン、スタントレン附近、ウイエトナムのスレボック上流)をあげ、精密調査に着手すべき旨を勧告した。

(3) 1960(昭35)年度第3次主要支流踏査前2年度はいずれも乾期の踏査であつたので、雨期についての補足踏査(地上及び航空)を行ない主要支流踏査総合作業予察報告書を作成した(1961年2月提出)。更に、3回にわたる現地踏査の成果を集大成した「メコン河主要支流踏査総合報告書」を作成した(1961年10月提出)。

(4) 1961(昭36)年度

(4) ナムカム計画予備調査

タイの支流ナムカム流域の多目的開発計画を樹立し、更にナムカムの支流ナムブン多目的ダム計画の予備設計をなす必要な調査を行ない、「ナムカム流域総合開発計画調査報告書」及び「ナムカム計画予備設計書」を作成した。(1962年12月提出)。

(a) プレクトノット計画予備調査

カンボディアの支流プレクトノット多目的計画のうち、貯水池ダム、発電部門の予備設計作成を目的とする調査及びかんがい計画の概略調査を行ない、「プレクトノット計画予備調査報告書」を作成した(1962年12月提出)。

(b) スレボック上流計画水文調査

測水所2ヶ所を設置し、定時水位観測及び月1回程度の流量観測を1年間継続して実施した。

(c) サンボール計画予備調査

本流の優先プロジェクトであるサンボール計画のダム、発電、灌漑、治水、舟航、工業計画等について、経済的、技術的な検討を行ない、「サンボール開発計画予備調査報告書」を作成した(1962年10月提出)。

(5) 1962(昭37)年度

(4) スレボック上流ダルラック計画調査

ダルラック盆地の灌漑、排水計画の調査を行ない、その報告書の中でこの盆地のかんがい可能地8,000haのうち1,000haの単独開発の可能性を指摘した(1963年12月提出)。

(4) サンボール計画第1年次調査

予備調査に引き続き、総合開発計画作成を目的とする精密調査の第1年次調査で、発電、舟航、灌漑、及び電力市場の4分野にわたつて調査を行ない、第1次中間報告書を作成した(1963年12月提出)。

(6) 1963(昭38)年度

(i) スレボック上流クロンボック計画調査

ダルラック開発計画と関連する上流のクロンボック計画についての調査を実施し、報告書を作成した(1964年1月6日提出)。

(ii) サンボール計画第2年次調査

土木、水文、材料、地形、地質調査等の土木調査に重点をおき、東京で水利模型実験を実施した。この結果は第2次中間報告書としてとりまとめた。(1964年1月6日提出)。

(7) 1964(昭39)年度

(i) スレボック上流クロンボック計画調査

(ii) サンボール計画第3年次調査

別表 1 本流および支流開発計画進捗状況

(昭和40年1月現在)

計画名	調 査				建 設				目的、計画規模
	協力国機関	内 容	経 費	備 考	建設費	分担国機関	経 費	備 考	
(本 流) バ モ ン (タイ・ラオス)	ア メ リ カ オーストラリア カ ナ ダ	総合計画報告書 地 質 調 査 図 化	u.s 2,500,000	実 施 中 完 了 完 了	u.s		u.s		灌漑：約 1,000,000ha 発電：約 1,000,000KW 洪水防禦 舟 航
サ ン ボ ー ル (カンボディア)	日 本 オーストラリア フ イ リ ビ ン カ ナ ダ	総合計画報告書 地 質 調 査 図 化 図 化	515,000	実 施 中 完 了 完 了 完 了	300,000,000				発電：約 620,000KW 灌漑：約 160,000ha 洪水防禦 舟 航 水産資源
ト ン レ サ ッ プ (カンボディア)	イ ン ド フ ラ ン ス フ イ リ ビ ン UNES - CO I A E A 委員会事務局	総合計画報告書 水 門 設 計 漁 業・沈 澱 図 化 数学的デルタモデル 沈 澱 調 査 洪水の経済的研究	282,000 50,000	実 施 中 完 了 完 了 完 了 実 施 中 完 了 実 施 中					水産資源保護 洪水防禦 塩害防止 舟 航 灌 漑

計 画 名	調 査				建 設				目的、計画規模
	協力国機関	内 容	経 費	備 考	建設費	分担国機関	経 費	備 考	
(支 流) バクタンバン (カンボディア)	SF(フランスの ソグレハ)	総合計画報告書	195,000	完 了	(第1期) 21,000,000				灌漑：約 68,000ha 発電：約 31,500kW
プレクトノット (カンボディア)	日 本	総合計画報告書	61,000	完 了		フ ラ ン ス		3,300万ドル の借款の一部充当	灌漑：約 94,000ha
	イ ス ラ エ ル	灌 漑 計 画	50,000	完 了		オーストラリア カンボディア W F P	800,000 760,510	実施設計及び管理	発電：約 18,000kW
ナム・グム (ラオス)	SF(日本の日 本工営)	総合計画報告書	83,600	完 了	(第1期) 27,000,000	イ ス ラ エ ル	50,000	実 施 予 定	発電： 20,000kW 灌漑： 5,000ha
	日本(対ラ経済 技術協力)	ダム・発電水力	140,000	完 了					洪水防禦 舟 航
ロウアーセント (ラオス)	フ ラ ン ス	総合計画報告書		完 了	1,295,150	フ ラ ン ス # ラ オ ス W F P	591,000 163,200 508,000 32,150	借 款 贈 与 資 金 準 備	発電： 1,440kW 1968年完成予定

計 画 名	調 査				建 設				目的、計画規模
	協力国機関	内 容	経 費	備 考	建設費	分担国機関	経 費	備 考	
ナム・ドン (ラオス)	フランス	総合計画報告書		完了	628,550	フランス " ラオス W F P	326,500 142,900 138,700 20,450	借 款 贈 与 資 金 準 備	発電： 690 kW 1968年完成予定
ナム・ボン (タイ)	SF(アメリカ のロジャース)	総合計画報告書	195,000	完了	260,771.9	ドイツ 中華民国 タイ W F P	12,050,000 40,000 13,057,369 270,350	20年利率3% 借 借 セメント2千トン	発電： 16,600 kW 灌漑： 2,200 ha 1965年12月完成予定
ナム・ブン (タイ)	日 本	総合計画報告書	100,000	完了	5,129,850	タイ 中華民国 イスラエル W F P	5,023,600 5,000 5,000 106,250	セメント250トン	発電： 7,000 kW 灌漑： 8,000 ha 1965年10月完成予定
ナム・ドン・ノイ (タイ)	タイ フランス	ダム発電所設計 土 壌 調 査		完了 実施予定					発電： 10,000 kW 灌漑： 20,000 ha
ホエ・バン・サイ (タイ)	タイ	踏 査		完了					発電： 5,000 kW 灌漑： 10,000 ha
アツパー・セ・サン (ヴェトナム)	SF(日本I営)	総合計画報告書	195,000	完了					発電： 640,000 kW (最終) 灌漑： 21,700 ha
アツパースレック (ヴェトナム)	日 本	総合計画報告書	113,000 (現在まで)	実施中					ドレイリング発電計画 (275万ドル) ダルラック灌漑計画 (35万ドル) クロンブツク灌漑計画 (390万ドル)

別表 2 開発計画に対する各国の協力状況

- (注) 1. 1965年1月11日現在
 2. 拠出済額及び拠出約束額の合計
 3. 単位 U.S.ドル
 4. メコン委員会資料

(1) 投資前調査及び立案

国機関名	協力事項	拠出額
オーストラリア	本流バモン及びサンポール、ダムサイト地質調査	530,000
ベルギー	水路専門家派遣	30,000
カナダ	航空写真図化	1,365,000
中華民国	セメント、高地用実験種級供与、研究旅行	80,000
デンマーク	紙、パルプ生産調査	10,000
フィンランド	紙、パルプ生産調査	10,000
フランス	水文調査、トンレサップ計画立案のための漁業、沈澱、土壌調査、デルタ埋立の研究洪水予報、ボーキサイト、その他の鉱物探査、地質図作成、電力市場調査、支流の土壌調査	1,286,329
インド	トンレサップ水門設計及び計画立案、土壌実験、雨量計供与	282,000

国機関名	協力事項	換出額
イラン	石油製品供与	
イスラエル	フレクトノット灌漑計画立案及び実験農場立案、セメント供与、全プログラム用臨時費、研修員受入れ	99,400 346,000
イタリア	専門家派遣	24,300
日本	支流踏査、サンホール計画立案、ナムブン計画立案、フレクトノット計画立案(ダムと水力発電)、アツバースレボック計画立案	977,893
オランダ	浚渫機、地図再生機、水文観測機、パイロット訓練	169,061
ニュージーランド	ジエット測量船、トンレサップ計画用器具、全プログラム用臨時費	220,000
ノルウェー	紙、パルプ生産調査	10,000
パキスタン	ナムボン計画の灌漑施設立案と仕様書作成	100,000
フィリピン	地形図作成	257,250
スウェーデン	紙、パルプ生産調査	20,000
英国	水文、気象、水路、航行改善、地質化学的鉱物調査	249,000
米国	水文、水路、水準測量及び地上測量(以上242万ドル)パモン計画立案(見積250万ドル)、水路関係器具(3.6万ドル)	533,000

国 機 関 名	協 力 事 項	換 出 額
	系統分析、天然社会資源調査(37.5万ドル)	
国連エカフエ	委員会に対する専門家提供と管理上の援助及び事務局長	484,752
国連技術援助評議会 (UN/TAB)	国連拡大援助プログラムの調整、このプログラムを通じ下記B.T.A.Oその他の特別機関が参加している。	
国連技術援助実施部 (UN/BTAO)	ホイラー調査団の派遣、専門家の派遣、諮問委員会、下記の国連特別基金による鉱物調査、事務局強化計画の実施機関としての業務(エカフエと共同)、委員会事務局に対する援助	362,799
国際労働機構 (ILO)	労働力分析	12,104
食糧農業機構 (FAO)	農業及び森林調査、下記の特別基金支流計画における実験農場の実施機関	133,930
ユネスコ	国連特別基金数学的デルタモデルの実施機関、地震調査	16,800
世界保健機構 (WHO)	住血吸虫病及びマラリアの研究	5,077
世界気象機構 (WMO)	水文気象調査	45,300
国際原子力機関 (IAEA)	アイソトープによる水文及び沈澱の研究	55,650
世界銀行	諮問委員会委員長派遣、ナムコム報告書の検討	—

国 機 関 名	協 力 事 項	拠 出 額
国連特別基金 (UN/SF)	- 実験農場を含む支流調査	1,698,450
	- ラオスのウイエンチャン平原における模範実験農場	345,885
	- タイのカラシンにおける模範実験農場	293,900
	- 水路調査	380,500
	- 鉱物調査	422,300
	- 数学的デルタモデル調査	920,600
	- 委員会機構強化	2,451,700
世界食糧計画 (W.F.P.)	- 予備	35,000
	- ラオスの模範実験農場	91,130
アジア財団	旅 費	—
フォード財団	経済及び社会に関する研究	—
Cestner (Eastern) Ltd	印 刷	—
Resources for The Future, INC	電力市場分析	—
Price Water-House Co.	ニュージーランド拠出金の会計事務	—
Sycip Gorres Vajay & Co.	フィリピン拠出金の会計事務	—
Shall Cii Co. 流域4ヶ国による現地拠出金	メコン記録映画	—
	- カナダの図化プログラムに基づいて	105,000
		7,990,704

国機関名	協 力 事 項	拠 出 額
	→インドのトンレサップ計画に基いて	50,000
	→米国の水文調査のプログラムに基いて	400,000
	→ (後期)	483,000
	→特別基金支流計画に基いて	471,192
	→特別基金による舟航改善のための水路調査に基いて	266,600
	→特別基金による飲物資源調査に基いて	283,640
	→特別基金ユネスコによる数学的デルタモデルに基いて	192,143
	→フランスのカンボディアの飲物資源調査	171,400
	→イスラエル、日本のプレクトノット計画に基いて	72,000
	→日本のサンボール計画調査に基いて	21,457
	→日本のアッパーズレボック計画調査に基いて	22,843
	→パキスタンのナンボン灌漑計画に基いて	25,000
	→プレクトノット模範実験農場のために (カンボディア)	1,000,000
	→バットンバン模範実験農場のために (カンボディア)	514,000

国機関名	協 力 事 項		拠 出 額
	ーカラン模範実験農のために (タイ)	307,104	
	ーヴィエンチャン平原 (ラオス)	205,250	
	ー世界食糧計画によるヴィエンチャン 農場の援助に基いて	13,075	
	ー特別基金による委員会機構強化計画 に基いて(5年間)	3,413,000	
	ーベルギー派遣水路専門家のために	1,500	
	ーラオスの現地拠出の留保分	22,000	
	ータイ拠出の回転資金	500	
	計 : 投 資 前		27,143,814

(2) 建設のための投資

カンボディアのプロジェクト 支流計画	4,971,510
(a) オーストリアからの技術の提供 (見積額)	800,000
(b) カンボディアの土盛りの実施及び他の設備 を含む建設費に対する充当金	3,357,000
(c) WFPの食糧援助	760,510
(d) (c)に基づくカンボディア持分のLocal cost	54,000
2. ラオスのロウアーセドン支流計画	1,294,350
(a) フランスからのラオスに対する借款	591,000
(b) フランスからのラオスに対する贈与	163,200
(c) ラオスの準備金	500,000
(d) WFPの食糧援助	32,150
(e) (d)に基づくラオス持分のLocal cost	8,000
3. ラオスのナムドン支流計画	628,550
(a) フランスからのラオスに対する借款	326,500
(b) フランスからのラオスに対する贈与	142,900
(c) ラオスの準備金	133,400
(d) WFPの食糧援助	20,450
(e) (d)に基づくラオス持分のLocal cost	5,300

4. タイのナムボン支流計画	26,017,719
(a) ドイツのタイに対する20カ年低利借款.....	12,650,000
(b) 中華民国からのセメント供与(2,000トン).....	40,000
(c) タイのダム発電計画への準備金.....	9,855,769
(d) タイの灌漑計画への準備金.....	3,152,000
(e) WFPの食糧援助.....	270,350
(f) (e)に基づくタイ持分のLocal cost.....	49,600
5. タイのナムブン支流計画	5,139,850
(a) タイの準備金.....	5,000,000
(b) 中華民国からのセメント供与(250トン).....	5,000
(c) イスラエルからのセメント供与(250トン).....	5,000
(d) WFPの食糧援助.....	106,250
(e) (d)に基づくタイ持分のLocal cost.....	23,600
6. 舟航改善事業—四カ国の水路標識及び水路改 善	2,520,000
(a) 米 国.....	2,250,000
(b) 英 国.....	190,000
(c) 4ヶ国政府.....	80,000

7. ラオスのナムグム支流計画に対するイスラエルからの贈与	50,000
計 : 投資	40,621,979
総計 : 投資前と投資	67,765,793

別表3 わが国のメコン河開発調査事業年度別実績表

備考年度()は繰越予算によることを示す。

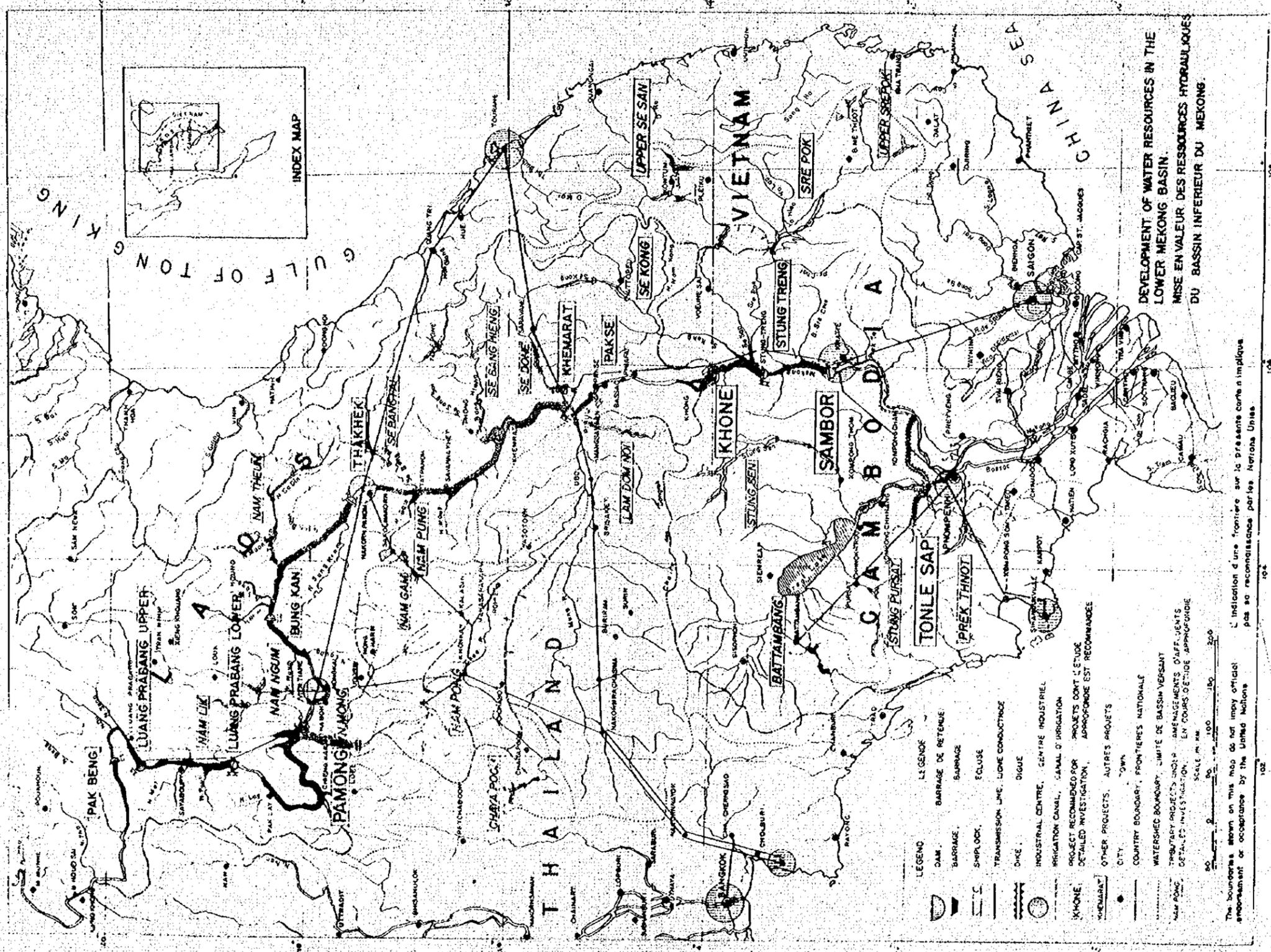
実施年度	調査団名	期 間 (日間)	経 費 (円)		対象地名域	国 名	派遣人員	派遣機関	調査団編成	備 考
			予 算	実 績						
33	第1次主要支流 踏査団	34. 1. 13 ~ 34. 3. 12 60日間	20,000,000	19,663,705	メコン河下 流域 4ヶ国	タイ、ラオス カンボディア ウイエトナム	18	海外電力調査会 国際建設技術協 会	科技、通産、建設、 農林、外務、工営、 電発、海外電力、東 電、国建協大南公司 日綿、朝日新聞	主要主流34河川の踏査 早期開発8支流を委員会に勧告、内 4支流について特別基金の資金贈与 により調査を実施
		小 計	20,000,000	19,663,705						
34	第2次主要支流 踏査団	34. 12. 15 ~ 35. 3. 30 105日間	43,200,000	35,079,578	同 上	同 上	21	メコン河総合開 発調査会	外務(建設)、農林 通産、工営、電発、 日本化学、東電、農 業土木、大南公司、 日綿	開発可能性の高い16支流のうち(含 む8支流)7支流を早期有望株開発 計画として勧告、内3計画は調査を完了 し、建設に着手(セドン下流、ナンブ ン、プレクトノット)1計画(ヌレボ ック上流)は調査中
		小 計	43,200,000	35,079,578						

実施年度	調査団名	期 間 (日間)	経 費 (円)		対象地名域	国 名	派遣人員	派遣機関	調査団編成	備 考
			予 算	実 績						
35	第3次主要支流踏査団	35. 9. 10 ~ 35. 10. 21 40日間	27523000	27420585	メコン河下 流域 4カ国	タイ、ラオス、 カンボディア グイエトナム	12	メコン河総合開 発調査会	外務(建設)、電発、 工営、日本化学、メ コン河調査会、日綿、 大南公司	雨期の補足踏査
(36)	主要支流踏査報 告書		(繰越) 3000000	2997640						主要支流総合報告書を作成
	小 計		30523000	30418225						
36	主要支流踏査経 費	計	93723000	85161508						相当米ドル≒\$256775 実績233319
(37)	ナムガム調査団 (1次)	36. 10. 2 ~ 10. 21 20日間			支流ナムガイ	タ イ	4	メコン河調査会	農林、電発	タイ政府は、ナムブン計画の詳細設 計及び監督を電発に委託、タイ政府 は全工事費500万ドルの支出を決 定、工事に着手した。
	(2次)	36. 12. 20 ~37. 3. 24 95日間	19248000	19246071	同 上	同 上	15	同 上	農林、電発、メコン 河調査会、鉦研試錐	
	(補足)	37. 9. 5 ~37. 10. 12 38日間	(繰越) 8731000	7610034	同 上	同 上	6	同 上	電発	
	小 計		27979000	26856105						

実施年度	調査団名	期 間 (日間)	経 費 (円)		対象地域	国 名	派遣人員	派遣機関	調査団編成	備 考
			予 算	実 績						
(36)	プレクトノット 調査団	36. 10. 1 ~37. 5. 28 240日間	(繰越) 16,467,000	16,466,127	支流プレク トノット	カンボディア	13	メコン河調査会	日本工営	オーストラリアが詳細設計、監督を 引きうけた。カンボディア政府は建 設を決定一部資金を割当、工事に着 手した。
(37)	〃 継続		(繰越) 4,190,000	4,190,000	同 上	同 上				
		小 計	20,657,000	20,656,127						
(36)	スレボック湖水 調査	36. 10~ 37. 9 1年	(繰越) 520,000	520,000	支流スレボ ック上流	ウイエトナム	15	メコン河調査会	日本工営	水 文 調 査
(37)	〃 継続		(継続) 320,000	320,000						
		小 計	840,000	840,000						
(36)	サンボール予備 調査団(本隊)	36. 10. 18 ~36. 11. 1 17日間			上流サンボ ール	カンボディア		メコン河調査会	科技、通産、建設、 農林、中電、工営、 電発、昭電、メコン 河調査会、日綿、通 産、外務、電発、工 営、電発	予備調査(本計画の可能調査)
	〃 (現地作業隊)	37. 1. 1~ 37. 3. 28 37日間			同 上	同 上	8	同 上		
(37)	〃 (雨季作業隊)	37. 9. 6~ 9. 28. 21日間	6,380,000	5,225,291	同 上	同 上	3	同 上		
		小 計	2,600,000	2,468,141						
		計	7,547,600	7,303,367						

実施年度	調査団名	期 間 (日 間)	経 費 (円)		対象地域	国 名	派遣人員	派遣機関	調査団編成	備 考
			予 算	実 績						
37	サンボール調査団(第1年次)	38. 1. 13 ~ 3. 28 75日間	45,700,500	44,787,832	本流サンボール	カンボディア	31	海外技術協力事業団	事業団、電発、港湾コンサルタント、海外電力、日本物探、	本格調査(第1年次) ダム発電部門を中心として、電力市場、舟航、農業の概要調査
(38)	〃 (第1年次補足)	38. 8. 24 ~ 9. 11 19日間	3,944,500	3,839,536	同 上	同 上	2	同 上	間組、農林建設、港湾コンサルタント	
	小 計		49,645,000	48,627,368						
37	スレボック(ダムラック)農業開発事業団	37. 12. 27 ~38. 3. 29 93日間	10,837,500	10,758,709	支流スレボック上流ダムラック湿地帯	ヴェトナム	9	海外技術協力事業団	事業団、工管	ダムラック湿地帯開発調査 (ボーリング、土壌、かんがい計画)
(38)	同 報告書		3,186,500	3,137,285						
	小 計		14,024,000	13,895,994						
(37)	附 帯 費		478,000	477,314						
	計		64,147,000	63,000,676						
	(以上 計)		(233,346,000)	(221,190,867)						

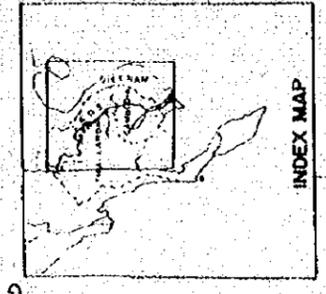
実施年度	調査団名	期 間 (日間)	経 費 (円)		対象地域	国 名	派遣人員	派遣機関	調査団編成	備 考
			予 算	実 績						
38	スレポック (クロンブツク) 開発調査団 (39) 報告書作成費等	38. 11. 14 ~39. 2. 12 91日間 小 計	9,361,000	9,196,115	支流スレポ ック上流	ヴェトナム	6	海外技術協力事 業団	事業団、工営	昭和37年度調査地域(ダルラック 湿地帯)上流域、クロンブツク、ク ロンバツク等の支流調査 (かんがい計画)
			(繰越) 4,739,000	4,563,747						
38	サンボール調査 団(第2年次) (39) 報告書作成費等	38. 10. 27 ~39. 1. 10 76日間 小 計	47,677,000	47,292,541	本流サンボ ール	カンボディア	25	同 上	事業団、電発、間組 日本物探	ダム発電部門中心調査 (ボーリング、弾性波地質調査水理 模型実験)
			(繰越) 2,400,000	1,865,210						
		計	64,177,000	62,917,613						
39	スレポック (アツパークロ ンブツク) 開発調査団	40. 3. 22 ~ (45日) 小 計	3,247,000	3,246,802	支流スレポ ック最上流	ヴェトナム	6	同 上	事業団、工営	昭和38年度調査地域(クロンブツ ク)上流部、スレポック最上流域の 一部 (かんがい計画)
39	サンボール調査 団(第3年次) (40)	前期 39. 9. 6 ~ 10. 15 後期 39. 11. 7 ~40. 3. 8 小 計	39,873,580	37,847,692	本流サンボ ール	カンボディア	前期 10 後期 23 計 33	同 上	事業団、農林省、 通産省、科技、水産 庁、海体電力、電発 日本港湾コンサル タント、三祐コンサル タント、間組	電力市場、農産、舟航、送電ダム発 電補足、水産等 総括調査
			(繰越) 12,305,420	未済						
		計	64,177,000	41,094,494						
		合 計	361,700,000	325,202,964						



- LEGEND** **LEGENDE**
- DAM BARRAGE DE RETENUE
 - BARRAGE BARRAGE
 - SHIP LOCK ÉCLUSE
 - TRANSMISSION LINE, LOW VOLTAGE LIGNE À HAUTE TENSION
 - DIKE DIGUE
 - INDUSTRIAL CENTRE, CENTRE INDUSTRIEL
 - IRRIGATION CANAL, CANAL D'IRRIGATION
 - PROJECT RECOMMENDED FOR DETAILED INVESTIGATION PROJET DONT L'ÉTUDE DÉTAILLÉE EST RECOMMANDÉE
 - OTHER PROJECTS AUTRES PROJETS
 - CITY VILLE
 - COUNTRY BOUNDARY, FRONTIÈRES NATIONALES
 - WATERSHED BOUNDARY, LIMITE DE BASSIN VERSANT
 - TRIBUTARY PROJECTS UNDER DETAILED INVESTIGATION PROJETS DES AFFLUENTS EN COURS D'ÉTUDE APPROFONDIE
- SCALE IN KM ÉCHELLE EN KM
 0 50 100 150 200

The boundaries shown on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.
 Les frontières indiquées sur la présente carte n'impliquent pas de reconnaissance par les Nations Unies.

DEVELOPMENT OF WATER RESOURCES IN THE LOWER MEKONG BASIN.
MISE EN VALEUR DES RESSOURCES HYDRAULIQUES DU BASSIN INFÉRIEUR DU MEKONG.



GULF OF TONGKING

THAILAND

VIETNAM

CAMBODIA

CHINA SEA

102 104 106

三才圖會卷之六

卷之六